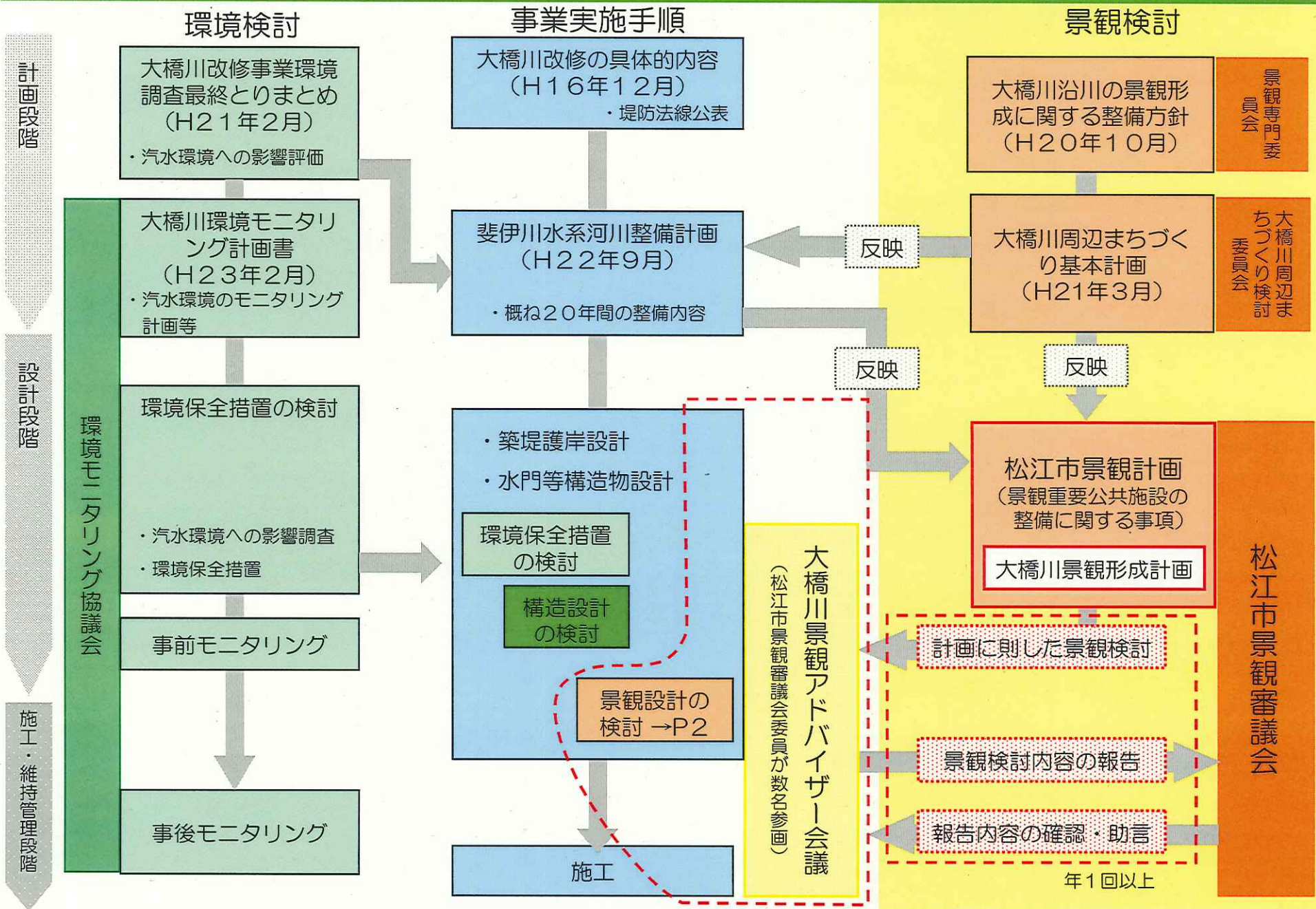


第1回
大橋川景観アドバイザー会議資料

平成25年3月18日

国土交通省 出雲河川事務所

大橋川改修事業の実施と景観・環境検討の流れ



大橋川改修事業とアドバイザー会議開催の流れ

『大橋川改修に伴う河川構造物の景観設計指針』の策定

- ・大橋川景観形成計画に基づき区間別に具体化 ← 区間別の景観形成基準との整合性
- ・記載内容；素材（材質、明度・彩度・テクスチャ等）、形状、施工方法（積み方等）、付帯施設、配慮事項（端部の処理等）

～ 素材等を考える上での評価軸 ～

- ・強度（耐久性）
- ・コスト
- ・歴史、文化性
- ・地域性
- ・安定的な調達の可能性

意見・助言

指針に基づき設計

景観設計

- ・指針に基づき、パース、施設形状、素材、色等についてコストを含めて検討・設計し、アドバイザー会議での意見を反映

意見・助言

設計に基づき施工

施工

- ・現地での施工状況を現地で確認

確認

大橋川景観
アドバイザー会議

必要に応じて見直し



【大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針 目次構成(案)】

- 1. 本指針の位置づけ
- 2. 河川構造物等の整備に係わる景観設計の課題と方針
- 3. ゾーン区分および区間区分
- 4. 各区間の現状(区間毎に整理)
 - 4-1 区間の景観特性
 - 4-2 主な景観要素の状況
 - 4-3 区間の護岸状況と視覚的特性
 - 4-4 区間の自然環境と水辺利用の状況
- 5. 各区間の景観設計目標(区間毎に整理)

『大橋川景観形成計画』『大橋川周辺まちづくり基本計画』『大橋川沿川の景観形成に関する整備方針』を基に整理

6. 各区間の景観設計方針(区間毎に整理)

6-1 護岸等材料選定方針



護岸および護岸と一体となり整備を行う天端舗装や階段等の素材(材質、明度・彩度、テクスチャ等)の選定方針をとりまとめる
大橋川景観形成計画における「区間別の景観形成基準」に基づき、素材の強度、コスト、安定的かつ長期的な材料調達の可能性、
歴史・文化性、地域性等踏まえ検討する
護岸材料の例) 自然石〔地元産石材(島石・来待石等)、その他〕、コンクリートブロック等

6-2 施工上の留意点



護岸の積み方、護岸天端処理など構造端部の施工時の留意点についてとりまとめる

6-3 その他配慮事項



植栽や転落防止柵等の安全施設など、河川管理施設以外の設置に当たり景観上配慮すべき事項についてとりまとめる

1. 本指針の位置づけ

大橋川からは、東には大山、西には夕日、南には嫁ヶ島、北には松江城が眺望できる。また、大橋川沿川においては川を舞台に営まれてきた伝統行事や四季折々に愛でてきた景観があり、歴史とともに培われてきた川とまちとの良好な関係が今なお息づいている。

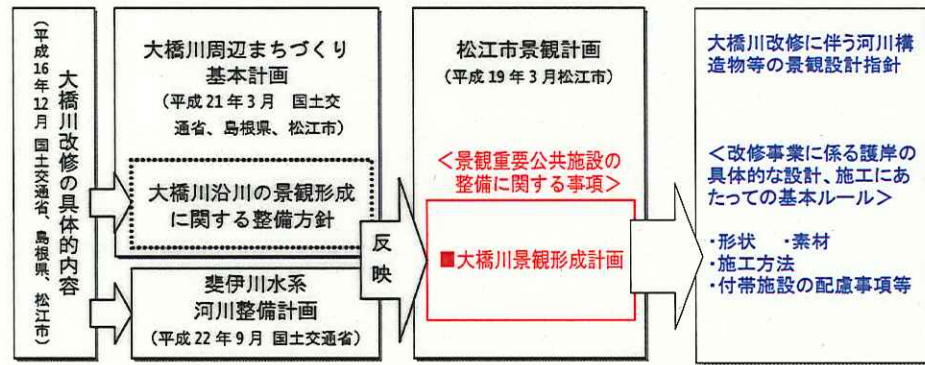
また、上流部では、老舗旅館、松江大橋、柳並木など大橋川沿いの歴史あるまちなみ、中流部では、川や水路、湿地などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷、下流部では、古墳や多賀神社、塩楯島、矢田の渡しなど古くから人との関わりを感じさせる川の姿、という景観的特徴をそれぞれが有している。

一方、治水事業として大橋川改修事業が推進されるなか、松江市の骨格となる河川景観軸である大橋川について、河川としての水面・水際の連続性を保ちつつ、それぞれの地域が持つ景観特性を活かして良好な景観形成を行い、水の都松江にふさわしい大橋川の良好な景観を保全・創造・継承していくことが強く求められている。

松江市は、景観法に基づく「松江市景観計画」（平成19年3月）を策定し、大橋川を松江市の骨格となる景観として河川景観軸の一つに設定している。また平成23年10月には、「大橋川周辺まちづくり基本計画」及び「大橋川沿川の景観形成に関する整備方針」を踏まえ、水の都松江にふさわしい大橋川の良好な景観形成を図るため、「松江市景観計画」の景観重要公共施設の整備に関する事項を、「大橋川景観形成計画」として定めている。

本指針は、「大橋川景観形成計画」に示される、「良好な景観形成に関する方針」に基づきながら、改修事業に係わる具体的な設計、施工にあたっての基本ルール（形状、素材、施工方法、付帯施設への配慮事項等）を示し、長期にわたる改修事業において一貫した景観形成方針が図られるようにすることを目的とする。

本指針と他計画と関連を下図に示す。



2. 河川構造物等の整備に係わる景観形成の課題と方針

- ◆大橋川上流部では、水面に映る歴史ある街並みや松江大橋の風情など、水都松江を象徴する景観が展開している。また水際には古くからの石積護岸も残っており、河川構造物は長い年月を経て、周辺景観に溶け込む存在となっている。
- ◆また大橋川中～下流部は、水田の広がりや緑の山々に囲まれ、水際にヨシやコアマモ群落広がる自然豊かな景観と生物生息環境が特徴となっている。
- ◆大橋川河川改修は、こうした景観に大きなインパクトを与える可能性があることから、新たに整備される河川構造物については、周辺景観に程よく馴染むよう十分に配慮し、水都松江の景観を継承するものとする。
- ◆周辺景観に馴染みやすいものとするためには、構造物自体が自己主張せず、周辺景観の中で脇役となることを前提とする必要がある。また“馴染み”を設計や施工に具体化するためには、歴史を踏まえた材料、工法、細部処理について十分な吟味が必要であり、単に自然石を採用すれば良いといった短絡的な整備とならないよう注意する必要がある。
- ◆このうち護岸材料については、地域景観との馴染みやすさ、あるいは地域産業と一体となった川づくりという点で、地場産石材を用いることにも配慮する。ただし現況の護岸に多く用いられている島石をはじめ、地場産の自然石等は供給量が限られていることから、一連の区間が様々な材料のツギハギにならないよう、施工規模と供給量について十分に検討を行った上で、最適な材料を選定する。
- ◆一方、地域の治水安全度を向上させるという基本的な事業目的に基づき、護岸等の構造・材料は確実な強度を有する必要がある、治水機能と景観のバランスについて慎重に検討を行う必要がある。また公共事業に係るコスト削減は近年の社会情勢の基調であり、コスト削減に配慮して整備を進めるものとする。



歴史ある街並みと大橋川の水面を基調とした上流部の景観



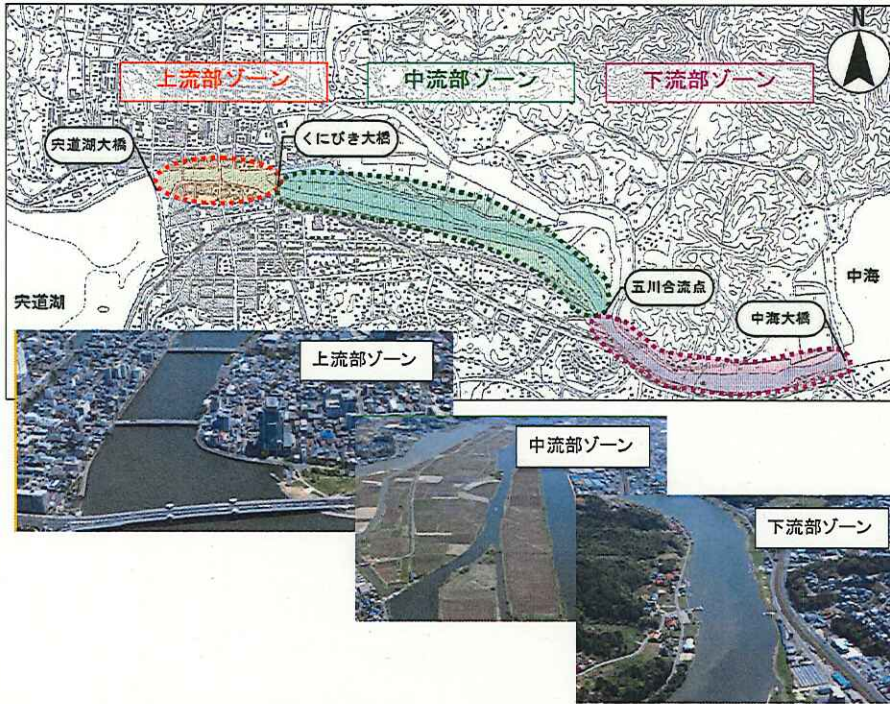
山並みや水田に囲まれた自然豊かな水辺が展開する中・下流部の景観

3. ゾーン区分および区間区分

河川改修事業に係わる護岸整備を実施するにあたっては、大橋川の景観を特徴付ける各地域のそれぞれが持つ個性やまちづくりの方針を十分に踏まえながら、整備を進める必要がある。

松江市の大橋川景観形成計画では、大橋川全川について、大きく3つのゾーン区分を設定し、さらに詳細な8区間区分を設定している。

本指針においても、松江市のまちづくり方針や景観形成方針との整合をとるため、上記のゾーン区分・区間区分を踏襲して、それぞれのゾーン・区間における護岸整備の指針を提示するものとする。



ゾーン区分	ゾーンの概要	
上流部ゾーン	穴道湖大橋～くにびき大橋	歴史的文化的なまちなみ景観と、人々が集い・行き交う賑わいのある都市的な景観を有するゾーン
中流部ゾーン	くにびき大橋～五川合流点	川や水田、湿性地などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷の景観が広がるゾーン
下流部ゾーン	五川合流点～中海大橋	古墳や多賀神社、塩桶島などの古くから受け継がれた歴史的資源が多い。また矢田の渡しや釣り場があるなど、古くか人との関わりが深いゾーン

